

登録コード	EKF13900	開講年度	2026				
授業科目	社会科授業方法研究				担当教員	関 良徳 他	
英文授業名	Teaching Method in Social Studies Education				副担当	廣内 大助・藤崎 聖也・野口 舞子・松島 恒熙・内山 琴絵	
単位数	1	講義期間	後期(前半)	曜日・時限	火曜・4時限		履修学年
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー 該当							
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	教育の専門職としての学識・技能				・内容研究・教材開発・学習指導案構築, 実践分析などの諸要素を統合しながら, 社会科教育に関する研究課題を解決できる。		
(2)授業の概要	演習方式で, 授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに, 各自の研究課題について, 先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。						
(3)授業計画	第 1 回: ガイダンス: この授業の目的や進め方について概説する。 第 2 回: 外国史学に関する授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題について分析する。 第 3 回: 人文地理学に関する授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題について分析する。 第 4 回: 自然地理学に関する授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題について分析する。 第 5 回: 法学に関する授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題について分析する。 第 6 回: 経済学に関する授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題について分析する。 第 7 回: 倫理学に関する授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題について分析する。 教員 6 名によるオムニバス形式の授業である。						
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容(40%), 質疑応答・議論の内容(20%), およびレポート(40%)によって, 「内容研究・教材開発・学習指導案構築, 実践分析などの諸要素を統合しながら社会科教育に関する研究課題を解決する力」を評価する。 ・評価割合は, 若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)履修上の注意	・内容によって, 授業日程や開催場所を変更することがある。 ・履修に当たっては, 自らの研究課題を考慮し, 主担当教員と相談の上で決定すること。						
(6)質問, 相談への対応および連絡先	担当教員への質問や相談は, 授業時ないしはメール(メールアドレスはeALPSに掲載)で行うこと。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」 : (1)研究課題, (2)理論的枠組み, (3)授業内容と専門性, (4)研究の意義, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)~(4)のうち3つ以上について発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「かなり上である」 : 上記(1)~(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)~(4)のうち2つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「やや上にある」 : 上記(1)~(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できた上で, (1)~(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表, 討議, およびレポートが実現できている。 「水準にある」 : 上記(1)~(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表, 討議, およびレポート構成が実現できている。						
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。また, 研究課題に関連した文献等を, 図書館等で検索・収集し, 研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり, 吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について, 事後に各自で調べて再検討すること。 ・この授業は22.5時間の学修を必要とする内容であり, 15時間以上の時間外学習が必要。 ・基本的に対面を予定しているが, 状況によりオンライン(TeamsまたはZoom)を使用する。						
【教科書】	・指定しない						
【参考書】	・随時リストを配付する。						